

### 資料③ 登壇者プロフィール

- 落合千華（おちあい ちか） ケイスリー株式会社取締役

社会的成果の可視化、組織や事業のマネジメント支援を専門に取り組む。特に芸術文化を通じた子ども支援、コミュニティ活性の研究・支援に従事。官民連携支援を含む各中央省庁の事業、地方行政、企業、NPO等のコンサルティング事業に参画経験多数。外資系メーカーR&D、経営コンサルタントを経て、ケイスリー参画。慶應義塾大学政策・メディア研究科研究員。

- 藤井慎太郎（ふじい しんたろう） 早稲田大学文学学術院教授、日本文化政策学会理事長

専門は、演劇学・文化政策学（特にフランス語圏および日本の現代舞台芸術）。2013年度ドラマトウルク養成プログラム責任者。共編著に *Alternatives théâtrales*, « Scène contemporaine japonaise », 『芸術と環境 劇場制度・文化政策・国際交流』（論創社）、監修書に『ポストドラマ時代の創造力』（白水社）、戯曲翻訳にワジディ・ムワワド『炎アンサンディ』など。

- 梅澤高明（うめざわ たかあき） A.T.カーニー日本法人会長／ナイトタイムエコノミー推進協議会

日米で20年以上にわたり、戦略・イノベーション・マーケティング関連のテーマでコンサルティングを実施。一橋ICS（大学院国際企業戦略専攻）特任教授。クールジャパン機構社外取締役。クールジャパン、知財、インバウンド観光などのテーマで政府委員会に参加。ナイトタイムエコノミー推進協議会（JNEA）を通じて、夜間の文化・観光に関わる官民の取り組みを支援。

- Naz Chris（なず くりす） DJ／プロデューサー／DIRTY30 プロダクション代表取締役

ロンドン・デリー・LA 経由の東京在住。野外フェス、クラブ、レセプションなどで多様なジャンルに対応したDJプレイを行う。現在、2年間に渡る東南アジアツアー中。独立系アーティストのための組織「DIRTY30 プロダクション」を設立し、Watusi、須永辰緒、いとうせいこう is the poet などのマネージメントを務める。一般社団法人JDDA 理事、「クラブとクラブカルチャーを守る会」副会長。

- 市原佐都子（いちはら さとこ） 劇作家・演出家・小説家

1988年生まれ。演劇ユニットQ主宰。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011年、『虫』で第11回AAF戯曲賞受賞。2019年、小説集『マミトの天使』早川書房より出版。あいちトリエンナーレ2019パフォーマンスアーツプログラム『バッコスの信女 ― ホルスタインの雌』上演。本作で第64回岸田國士戯曲賞受賞。公益財団法人セゾン文化財団フェロー。

- 小川希（おがわ のぞむ） Art Center Ongoing 代表

1976年東京生まれ。2001年武蔵野美術大学卒。2004年東京大学大学院学際情報学府修士課程修了。2002年から2006年に亘り、大規模な公募展覧会『Ongoing』を、年一回のペースで企画、開催。その独自の公募システムにより形成したアーティストネットワークを基盤に、2008年に吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。現在、同施設代表。また、JR中央線高円寺駅～国分寺駅区間をメインとしたアートプロジェクト『TERATOTERA（テラトテラ）』のチーフディレクターも務める。

- 遠藤麻衣（えんどう まい） 美術作家・俳優

1984年生まれ。俳優、美術家。演劇、映像、写真などのメディアを複合的に組み合わせて作品を制作している。近年の主な発表に《When It Waxes and Wanes》(VBKÖ, 2020)、《パンゲア・オン・ザ・スクリーン》(2020)、《Stilllive》(Goethe-Institut Tokyo, 2019)、《コンテンポラリーへびんぼじゃじゃりの引退》(hym, 2018)、《アイ・アム・ノット・フェミニスト！》(Goethe-Institut Tokyo, 2017)、「MOT アニュアル 2016 キセイノセイキ」(東京都現代美術館、2016)。また、最近の出演に指輪ホテル「バタイユのバスローブ」(2019)、岸井大輔「始末をかく」(2013~2018)など。丸山美佳と「Multiple Spirits (マルスピ)」(2018-)を創刊。<http://maiendo.net>

- 梅田宏明（うめだ ひろあき） 振付家、ダンサー、ビジュアルアーティスト

2002年より自身の振付作品がパリ・シャイヨー国立劇場など世界各地に招聘され、これまでの公演先は世界40カ国／150都市以上に上る。作品では振付、ダンスだけでなくサウンド・映像・照明デザインも手がけ、作品はダンスだけでなくテクノロジーアートや音楽の分野などでも多く上演されている。近年は身体的感覚にフォーカスしたインスタレーションも制作しており、映像作品は2018年、21\_21 DESIGN SIGHTの「AUDIO ARCHITECTURE 展」で展示されたほか、ダンス作品を元に制作されたドーム型映像作品はドイツやポルトガルのフェスティバルで受賞、その他世界の様々な国で上映されている。